

「世の罪を取り除く」この言葉を聞くと、私は少しこわくなります。なぜなら、この言葉が、ときに人を攻撃する合言葉のように使われるからです。「悪を取り除け」「あれが罪だ」「あの人が悪い」——そんなふうに、戦いが始まってしまうことがあるからです。

しかし洗礼者ヨハネは言いました。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」(ヨハネ 1:29)

この言葉は、人を裁くための言葉ではありません。神が、罪を背負ってくださるという知らせです。今日はこの言葉を中心に、み言葉を聞きたいと思います。

まず「世の罪」とは何でしょう。これは、だれか一人だけの罪ではありません。それは、世界に広がっている罪です。争い、暴力、差別、いじめ、貧しさ、孤独。そして、私たちの心の中にもあります。怒り、ねたみ、冷たさ、ゆるせない気持ち。

だから「世の罪」という言葉は重いのです。

ここで大切なのは、ヨハネが言ったのは「世の罪を裁く方だ」ではなく、来られたのは「世の罪を取り除く方だ」ということです。

裁くのは私たちの仕事ではありません。罪を取り除くのは、神の仕事です。そして神は、そのために「小羊」を与えられました。それがイエス・キリストです。

「取り除く」と聞くと、力で悪を消すように思うかもしれません。

しかし福音書が示す方法は、違います。イエスさまは、強い武器で罪を消されません。

イエスさまは、罪のない方なのに、十字架への道を歩まれました。

そして、世の罪を「自分の身に負う」ことで、取り除かれました。

これが福音です。神は、暴力で罪を消すではありません。

神は赦しによって、罪を取り除かれます。

だから、「世の罪を取り除く」という言葉を聞くと、私はこう考えます。それは「私たちが誰かを攻撃してよい」という意味では無く、神が、罪を背負ってくださる」という意味だ。

ヨハネは、思いつきで言ったものではありません。彼は今日の箇所、はっきり言います。

「霊が降って、ある人にとどまるのを見たら、その人が、聖霊によって洗礼を受ける人である。」

「わたしはそれを見た。だから証しした。」

つまりヨハネは、「私は見た。だから言う」と言っているのです。

私たちも、直感や思い込みだけで人を決めつけることがあります。「きっとこの人が悪い」「あの人はだめだ」でもそれは、とても危険です。私たちは、自分の姿さえ正しく見えません。

だからこそ、話し合い、耳を傾け、急いで裁かないことが大切です。

その中で、ヨハネの言葉が響きます。

「見よ。」

見るべきなのは、だれかの罪ではありません。罪を背負う小羊です。

ヨハネが「見よ」と言ったとき、二人の弟子が動きます。弟子たちはイエスさまについて行きます。するとイエスさまは言われます。「何を求めているのか。」

この問いは、私たちにも向けられています。

「あなたは何を求めているのか。」

私たちは、安心を求めています。赦しを求めています。やり直しを求めています。

家族や隣人と、和解したいと思っています。

イエスさまは言われます。「来なさい。そうすれば分かる。」

信仰とは、「全部わかった人」になることではありません。イエスさまのところへ行くことです。世の罪の重さを知っているからこそ、私たちは小羊のもとへ行きます。

弟子のアンデレは、兄弟シモンに言います。

「わたしたちはメシアに出会った。」

そしてシモンをイエスさまのところへ連れて行きます。

世の罪は大きい。私たちの力では取り除けません。でも私たちにできることがあります。

それは、アンデレのように、「一人」をイエスさまのところへ連れて行くことです。

大勢を変えることは難しくても、目の前の一人に、やさしい言葉をかけることはできます。

一人のために祈ることはできます。一人の話を聞くことはできます。

その小さな歩みが、主の救いの道につながっていきます。

第一日課イザヤ書 49 章には、主の「しもべ」が出てきます。その人は、強い英雄ではありません。「むなしく苦労した」と感じる、弱さもある人です。でも神は言われます。

「あなたを通して、救いは地の果てにまで届く。」(49:6 趣旨)

第二日課の 1 コリントでもパウロは言います。

あなたがたは「召された者」だ。神が呼んでくださった。神は最後まで支えてくださる。

パウロは私たちに語りかけます。世の罪を取り除くのは、私たちの力ではない。でも神は、私たちのような弱い者を召し、主の働きの中に参加させてくださる。

「世の罪を取り除く」

この言葉は、戦いを始める言葉ではありません。人を裁く言葉ではありません。

これは、救いの知らせです。

「神が小羊を与えた。」

「罪を背負う方が来られた。」

「あなたは一人で戦わなくてよい。」

「あなたも、赦しの中で生き直してよい。」

だから私たちは、ヨハネと一緒に言います。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

見るべき方は、だれかの罪ではない。

罪を背負い、赦しを与える主イエス・キリストです。

その主のもとに集められ、

私たちもまた、小さく「見よ」と指し示しながら、

赦しと平和の道を歩んでまいりましょう。